

■ 記念資料室のご案内

韓国、日本他で発行されている下記事項に関連する図書、論文、新聞他資料を収集、整理、保管しているほか、史料とパネルを展示しています。

■ 所蔵図書・資料

- ① 2.8独立宣言運動
- ② 関東大震災
- ③ 在日韓国・朝鮮人史
- ④ 在日韓国人キリスト教会、韓日キリスト教関係史
- ⑤ YMCA史（日本・韓国）
- ⑥ その他

■ 史料・パネル展示

- ① 2.8独立宣言運動関係史料及び運動経緯説明パネル
- ② 関東大震災朝鮮人虐殺関係史料及び経緯説明パネル
- ③ その他企画特別展

■ 各種案内、資料

- ① 韓国・国内外歴史関連施設案内パンフレット
- ② 在日韓人歴史資料館、高麗博物館他在日歴史関連施設案内
- ③ その他

■ その他

- ① 映画『2.8独立宣言（仮称）』（'08.9月完成予定）
- ② インターネット接続のPC設置
- ③ ホール（9F及び地下・220名まで収容可能、同時通訳機器完備）や各種会議室等付帯施設を使用して本格的な研修が可能。

【ご利用案内】

■ 資料室オープン時（別紙記載）は、原則としてどなたでもご見学いただけます。但し、図書・資料の閲覧等を希望される場合は、事前に申し込みが必要です。

■ 学校等団体の校外学習、国際理解教育等でのご利用を歓迎いたします。内容、日時等ご要望にお応えいたしますので、事前にご相談ください。

※資料室運営のお手伝いをいただけるボランティアを募集しております。

【交通案内】



YMCAとは

YMCA (Young Men's Christian Association) は、1844年イギリスのロンドンで設立され、現在世界約124の国と地域にあり約4500万の人々が参加しています。キリスト教精神に基づき青少年の人格向上、精神、知性、身体の調和のとれた発達をはかり、民主的で平和な社会のために奉仕する世界最大の青少年団体です。



在日本韓国YMCAの歩み

在日本韓国YMCAは、ソウルYMCAに続いて2番目の韓国YMCAとして1906年、東京に誕生しました。祖国の受難期に当たり、キリスト教信仰に立脚した明日の指導者を養成することを目的に、前年に閉鎖された在日公使館に代わり、韓国からの留学生の保護、日本語教育、下宿の世話、進路相談等の活動を始めました。



1919年の3.1独立運動の導火線となった「2.8独立宣言」の舞台となったことで象徴されるように、過酷な植民地統治の中、独立を願う留学生の人格形成の場であり、独立運動の拠点でもありました。また、当初より聖書研究、祈祷会が熱心に続けられ、創立の2年後には現在の在日大韓基督教会を生み出し、苦難の時代を、教会共々、世の光、地の塩としての役割を果たしてきました。

現在、在日本韓国YMCAは、韓国YMCA全国連盟と日本YMCA同盟の双方に加盟し、アジア太平洋YMCA同盟、世界YMCA同盟に連なっています。韓日両国の連盟／同盟に加盟している二重性を、在日本韓国YMCAに与えられた貴い使命であると考えております。

そのような長い歴史と伝統をもとに、韓国文化を中心とした国際文化活動、日本語学校、韓日文化交流、宿泊研修事業等を展開すると共に、国際・地域社会奉仕活動を積極的に進めつつ、平和で公正な社会を目指して『和解と共生』の働きを拡充していきます。



在日本韓国YMCA会館

— 和解と共生 —

YMCA 在日本韓国YMCA

2・8独立宣言記念資料室



独立宣言を主導した留学生

■ 在日本韓国YMCA ■

〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-5-5

TEL 03-3233-0611 / FAX 03-3233-0633

<http://www.ymcajapan.org/ayc/>

mail : ayc@ymcajapan.org

記念資料室開設の目的

1906年の創立以来、在日コリアンの歴史と共に歩んできた在日韓国YMCAは、次の世紀も在日コリアンを始め、年々増加している在日外国人、そして社会的少数者、弱者と共に歩いていくことを決意しました。そして、より視野を拡げ『和解と共生』の働きを韓日、アジアから世界に拡げることを確認し、本会創立100周年事業のひとつとして、大韓民国国家報勲処の協力を得て、『2.8独立宣言記念資料室』を開設するに至りました。

さて、在日コリアンの精神的支柱とも言うべき2.8独立運動は、祖国の独立を宣言するだけにとどまらず、国際的な連携の下、3.1独立運動の母体となり、大韓民国上海臨時政府の樹立に大きく寄与し、それ以降の社会運動、国内外の民族独立運動へと引き継がれていきました。また2.8独立宣言で逮捕された学生たちの救援のため日本人弁護士達が熱心に尽力するなど、独立運動を理解し協力しようとした日本人知識人達が存在し、困難な時代の中でも、真の日韓共生の流れがあったということも歴史の教訓として覚えていたいと思います。

「2.8独立宣言記念資料室」が、これからも青少年達の歴史意識を啓発する場として、人と文化の出会いと学びの場として、『和解と共生』の働きを拡充する場として大いに用いられることを願っております。是非関心をお寄せくださり、ご支援賜りますようお願い申し上げます。



2.8独立宣言
記念資料室

独立宣言記念碑



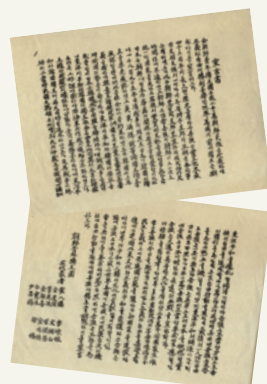
3.1独立運動の導火線となった『2.8独立宣言』

1914年に勃発した第一次世界大戦は長期化し、欧米列強を疲弊させ、ようやく1918年終了しました。戦時中アメリカ大統領ウィルソンが提唱した「民族自決主義」は弱小民族を大いに勇気づけました。在日朝鮮人留学生たちは、国内外の指導者たちとの情報交換と国際情勢分析を通して、民族独立運動には最適な時期であると判断し、監視の厳しい中、年末から年明けにかけて様々な名目をつけた会合や集会を経て、具体的な準備を進めていきました。

東京では30年ぶりと言われる大雪に見舞われた1919年2月8日、中心メンバーたちは朝から集合し、日本語と英語に訳された独立宣言文、決議文、民族大会召集請願書を日本の貴族院、衆議院の議員たち、政府要人、各国駐日大使、内外言論機関宛に郵送しました。この日午後2時から、在日本東京朝鮮YMCA（現在の在日韓国YMCA—以下YMCA）の講堂で「朝鮮留学生学友会総会」が開催されることになっていました。会場は始まる前から結集した多くの留学生（約400～600人）で熱気にあふれていました。総会の開会宣言、開会祈祷が終わると同時に『朝鮮青年独立団』を結成しようとの「緊急動議」の声が挙がり、独立団代表11名の署名入り独立宣言文が満場一致で採択されました。警察官たちが乱入し、指導メンバーたちの一斉検挙が始まり、使命を帯びて日本から脱出していた2名を除く代表9名が逮捕



独立宣言の舞台となった
当時の会館



独立宣言文

されてしまいました。それでも後を継いで、運動は継続されていきます。この『事件』は、日本国内はもちろん、海外でも報道され大きな波紋を呼びました。留学生の逮捕を報じた記事



留学生の逮捕を報じた記事

逮捕された留学生たちの支援活動のために、当時のYMCA白南薫総務が中心となり、募金運動が展開されると同時に、差し入れも含めて定期的な面会が行われました。また、朝鮮の独立を理解する日本の進歩的知識人に支援を求め、花井卓蔵、布施辰治を始め卓越した弁護士たちが弁護を引き受けました。厳しい内乱罪を適用しようとした検事の論告をことごとく論駁し、結局出版法違反という微罪を勝ち取ることができました。

また、3.1独立運動後、YMCAを「独立運動の策源地」と見なした日本政府は、1919年末YMCAの建物を日本組合教会の管理下に置こうとしましたが、留学生たちの大きな抵抗、吉野作造らの厳しい批判等にあい、実現は阻止されました。内村鑑三と本当に友人関係で交際したただ一人の朝鮮人であったと評される金貞植初代YMCA総務との交流、吉野作造が親友と称した白南薫との信頼関係の深さ



白南薫



布施辰治

から分かるように、厳しい不幸な時代の中にあっても、正義と平和を求める日本人と朝鮮人との素晴らしい交流の蓄積があったからこそ、このような成果をあげることができたと言えます。

関東大震災と朝鮮人虐殺

1923年9月1日正午前、関東地方南部に大きな地震が起り、東京、神奈川を中心に多大な被害をもたらしました。死者・行方不明者が10万人を超える大混乱の中、「朝鮮人が暴動を起こして井戸に毒薬を投げ込んだ」、「強盗、強姦、殺人を犯している」というデマが広がり、在郷軍人や自警団、軍隊、警察によって「朝鮮人狩り」が始まり、約6000人もの朝鮮人が虐殺されたと言われます。

YMCAは東京教会と協議し、在東京天道教青年会と共に「災害同胞慰問団」を組織、救済品の配布や、虐殺の実態調査などの活動を行いました。翌年他団体と共同で開催した虐殺同胞追悼会は、その

後も長く各教会との合同で続けられ、今日における毎年9月1日の東京YMCAとの合同祈祷会に至っています（東京YMCAでは、震災の翌年、賀川豊彦や小崎弘道などが発起人となり、「朝鮮人および中国人虐殺懺悔祈祷会」が行われました）。



（上）関東大震災
朝鮮人暴動虚偽記事
（下）関東大震災被災後YMCA
旧会館跡地